

## 令和2年度第2回館林市子ども・子育て会議 議事録【概要】

1 日 時 令和3年2月12日（金）午後3時00分～4時50分

2 場 所 館林市文化会館小ホール

3 出席者

【館林市子ども・子育て会議委員】 13名

森会長、落合副会長、津久井委員、角田委員、大塚委員、荻野委員、原委員  
鎌田委員、川島委員、向井委員、阿部委員、飯塚委員、平林委員（以上名簿順）

【事務局】 12名

保健福祉部 : 中里部長

こども福祉課 : 木村課長、萩本保育係長、石井係長代理、妻神子育て支援係長、中村

健康推進課 : 島田母子保健係長

学校教育課 : 荒川学事係長、鈴木主任

生涯学習課 : 山口青少年係長

教育総務課 : 鈴木課長、折原総括係長

4 会議内容

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

本日の会議は、館林市の子どもたちの未来に関わる内容が多い。総合計画の基本構想にもあるように「次世代に安心をつなぐ」という考えで、他者の意見をしっかりと聴いたうえで、たくさん発言してほしい。そして、事務局はしっかりと受け止めていただきたい。

(3) 議事

ア 第2期館林市子ども・子育て支援事業計画 令和2年度実施状況について  
事務局より説明

(ア) 利用者支援事業について

(イ) 病児保育事業について

(ウ) 放課後児童健全育成事業《放課後児童クラブ》

イ 令和3年度 教育・保育施設の利用定員について  
事務局より説明

【質疑応答等】

会 長 : 市は、保育士確保のための努力を行っているのか。

事務局 : 市では保育士の確保対策補助を設け、保育士資格を持ちながら1年以上保育士として勤務していない方が保育士として勤務した場合に補助している。今後は、より効果的な周知の方法も検討したい。

ウ 就学前の教育・保育のあり方について

事務局より説明

【質疑応答等】

会 長 : 幼稚園型については、認定こども園を名乗る限りは0～2歳児も一定数は預かり、逆に保育所型では、教育認定の子どもも預かるというものである。預かる人数としては、幼稚園型では、保育園部分の対象者が10～15人、保育所型では、幼稚園部分の対象者が10～15人と考えていただきたい。幼保連携型については、制約はない。

これまで何度も幼保一元化という話は出てきた。そのたびに大人の都合で認定こども園化は実施するものと考えてきたが、今回の館林市は違う。館林市はとても丁寧に進めていると感じた。

「就学前の教育・保育のあり方」は手順からしっかりと作られている。趣旨から今後の流れまで網羅されており、借地や老朽化の話など、新しく知ることがたくさんある。良く分かる内容になっている。子どもを中心に考えられる気持ちがあれば、これからの館林市の公立幼稚園と保育園は良い形で前に進める。

平成29年の法律により、保育園、幼稚園、認定こども園もすべて幼児教育の機関であると書かれ、告示された。幼稚園では幼児教育という言葉を使い、保育園は保育という言葉を使うが、保育の中に教育が入っている。それを受けるのが子どもの権利である。

アンケートについても、保護者の思いがしっかり表れている良い資料である。認定こども園の良いところは、就職の有無に関係ないところである。

委 員 : 認定こども園化はとても良いことであると思う。就労の有無に関係なく

預かってもらえることはありがたい。

委員 : 認定こども園化の話は前々から出ていたが、これでようやく動き出すと  
感じる。認定こども園という方向で対応することは良いことである。

委員 : 園を見学に来た保護者から、幼稚園、保育園、認定こども園は何が違う  
のかと聞かれるが、今はどれも同じであると説明している。  
保護者はニーズに合わせて園を選択する。

委員 : 本園では同学年の子どもが群れて遊ぶ経験は少ない。しかし、園庭では  
3～5歳児と一緒に遊んでおり、上級生への憧れは抱いていると思う。  
しかし、同年代が一桁しかいないため、競い合いはない。  
今後、研修等を通して幼保の連携が図れるようになれば良いと考えて  
いる。

委員 : 小学校に入った子どもたちの様子をみても、幼稚園の子、保育園の子で  
変わりはない。しっかりとした教育を受けてきたということを感じる。

委員 : こども園化の方針についてどこまで私立保育園の園長に相談して良いも  
のか分からないため、今後私立園にも相談や報告をお願いしたい。

委員 : この件を前向きに捉えながらも不安な気持ちもある。幼稚園と保育園の  
お互いの役割、専門性をお互いに理解して調和していくことで、館林市  
の子どもたちのために前に進んでいけると思う。

委員 : 認定こども園化は良いことであると思うが、アンケートにあった就労の  
有無に関わらず通えるという点が気になる。  
自分は人数の少ない園が希望であるため、あえて少ない園を選択した。

会長 : 保護者にも様々な方がいる。どの方法が最善なのかは市が判断してくれ  
る。年齢が低いほど、小さい集団の方が落ち着くものである。

委員 : 市の考えが良く分かった。保護者の立場からすれば、園を選べるのはあ  
りがたい。

委員 : これまでの流れにより、こうなるべきであると感じる良い内容であると

思う。保護者の祖父母が小学校や認定こども園を利用することなどが、地域を作ることであると考えている。

委員 : 自分の子どもは私学の小学校に通っているが、保護者は幼児教育に興味があり情報収集をしている方が多い。その中で、館林市の子どもは市外の幼稚園に通っている子どもが多くいると聞いた。  
大きい園にたくさんの子どもがいることが良いわけではない。大きい園だけではなく、少人数教育を特徴とした園があっても良いと考える。

副会長 : 素人でも良く理解できた。  
「ある程度の集団を確保した中で」とあるが、どの程度が適正なのか。

森会長 : 今は3歳児が20人、4～5歳児が保育園は30人、幼稚園は35人が適正と言われているが、将来的には見直しがあると思われる。

#### (4) 閉会